I

学校新聞を考える

えである。

星

洛星新聞編集局

味があるとは思われない。そこで 的に学校新聞を発行しても余り意 した。猶、これは洛星新聞局の考 ものをもう一度考えてみることに 展示会に当って、学校新聞という 洛星新聞局では第十四回記念祭の 唯漠然とした意識の下に、

惰性

一これら三つの考えを

根底にして学 新聞作製に当って る。

又学校新聞は

このような目的 価値が現われないのである。生徒 助けとならなくては、ここに存在 事を成し遂げるか又は成す為の手 で発行されるという事はこれらの 校新聞は発行されるべきなのであ いろいろな事に対する正しい評価 に学校内の諸々の事を報道し、又 ある。

端な新聞といわねばならない。 に目的がないのか分らない中途半 心掛けずに発行される新聞等は何 使命である。この使命を果そうと 依する事が学校新聞に科せられた 校との親密を図り学校発展より帰 を下し、それらによって生徒と学 2 学校新聞のもつ多

っていろいろと異るが、本質的な

その目的はその時の趣意に従

ある種の目的を自覚して作られ

学校新聞が創られる時には常に

目的をここでもう一度考え直して

みるととにしょう。

考えによって形作られている。そ

学校新聞の目的は大きく三つの

道である。学校の行事予定を生徒 の第一は学校中における種々の報

に知らせ、又生徒会等の活動状況

それらは、記録性、報道性、評論 性、娯楽性、その他の五つである。 版物があるけれど、学校という中 事録を筆頭に多くの永続的記録出 それは一般社会においては国会議 聞には比べられないものがある。 この記録性のもつ重大性は一般新 の要素、五つの働きを持っている。の報道をいかに受けとるべきかを一楽記事である。そして又最も低俗 えてみよう。学校新聞は大体五つ れば学校新聞の多面性について考しあっては、ある事柄の報道と同時 もつ多くの要素や働き、いい換え えて来たが次に学校新聞の実際に イ、記録性、学校新聞において 以上学校新聞の目的について考 は れている報道と違い、学校新聞に 道性が余り重要でないのか。その かしこうなるともはや報道性とし 知らせる事が必要であるのだ。し 般社会と異なり、ある事柄に一であり、又やりがいのある所であ

ように、拡張して考えれば社会一

に対する正しい思考と批判をする

般の物事について自分の意見をは

事である。即ち批判力養成の目的

し判断する事ができるように導く

かつ十分に考察し

生徒と教職員や学校との親密化を

う事である。第二には生徒が物事 知らせ的な目的をもっているとい をよく生徒に知られる事。即ちお

> 以外に知る由はないような有様で一 学校新聞が生徒がいつでも繙いて をもってくるのである。実際ニー 三年前の生徒会長の名前すら新聞 課外活動に関する記録は皆無に近 はその主体が学校教育に向けられ

かし学校新聞という特殊な状態の一生徒の思考的水準を高めるに役立 あり、又報道性という事から新聞一る事も知っていなくてはならな はその最も重要な要素は報道性にし、評論というものとは異ってい おける報道性のもつ重要性は甚だ一が読者である生徒と異る人の意見 もつ意味が変ってきている。即ち の必要性が生まれて来ている。し 少いといえる。一般新聞において一は忠告又は参考意見とはなり得て 下にある新聞においては報道性の ロ、報道性、一般に学校新聞に一験の豊富な、物事を見つめる視点 つのである。

色彩を帯びてくる。それではどうし、人気がある新聞というのはよ にその報道より率ろ重要な位にそ まれ人気を得るのが、この種の娯 校という狭い小さな組織にあって一が娯楽性の取扱う上での難かしさ ての性格は薄らぎ、評論としての一穴はそこにある。低俗化していて いう原則の下で客観的に取り扱わ一の結び付きを親しくし家庭的な雰 一般新聞において、速く正確にと 答はいまさら言うに及ばない。学|新聞といえる。その間のかね合い して学校新聞においては純粋の報(くある事であるが、そのような新一盛りたてていたという方が適当な 聞はその目的、その使命を忘れた ある。この種の記庫の陥りやすい 校新聞において最も生徒によく読 化しやすいのも、この種の記事で 娯楽性は多くの場合生徒と教職員 囲気の形成を目的としている。学 ニ、娯楽性、学校新聞における

なものである。ロの報道性の項で てその新聞の価値が決まる位重要 も学校新聞から報道性を消す事は も述べたように学校新聞において ハ、評論性、この評論性によっ

る記録という事になり重要な意味しのが要求され又生徒自身が生み すら不確かなものである。そこでに批判するものであってはならな みる事のできる唯一の生徒に関すの背負った使命に沿った客観的な けれども、生徒自体の事や生徒の一べきであるかを報道する事即ち評 ており、教育における記録は残る一の事柄に対してどのように考える 記録は残されるべきであるがそれ一や、何の目的もなく物事を軽蔑的 いのが現状である。最少限生徒会一評論は片寄った視点にたったもの してとの上げるのは好ましくな る。ことでは先生の意見も評論と 論性があるのである。しかしこの 出したものである事が重要であ いはもっと重要なものとして、そ い。生徒が生み出した評論こそ、 い。この評論はあくまで学校新聞 い。先生という生徒よりも人生経 は、ある事柄の報道と同じ位ある

である生徒の投書の量にそれは現 間、洛星新聞は大きく変化してき くらいである。そしてその時に現 われている。生徒の方から新聞を 新聞編集者の熱心な企画と、読者 で大きな流れを見直してみよう。 た。細かい事は抜きにして、こと というものであった。局長が就任 われたのは、面白い、楽しい新聞 て、より生徒と結びついていた。 を洛星新聞はもっている。 以前の洛星新聞は、現在に比べ 1 洛星新聞の経過

となった。平凡な目立たない新聞 星新聞も、平凡な目立たないもの 纏うようになり、それにつれて洛

ないのではない。日伝えに伝わっ っても一カ月に一度位しか発行さ 関する報道は不定期や、 る。だからその点に関してだけで のはいうまでもない自明の道理で一 えに伝わってゆく方が遥かに早 れない新聞によるより、人の口伝 と信じてもいいように思ってい 戦道された時には

それは正しい事 として考えていても、一旦新聞に として聞いただけでは不確かな事 性を持っており、又読者の方も噂 と違い新聞の報道はかなりの正確 た事や噂として知れ渡っている事 ある。しかし全く報道性が必要で 定期であ

ねばならない。まず最大の問題 大きな問題も合んでいる事を認め だけであるのが現状である。しか して敬遠され、僅かの熱心な読者 種の記事は肩の凝る退屈なものと は、論評や批判重視の新聞が余り 態にするには多くの困難が伴い又 だけが一緒になって考えてくれる 生徒に読まれない事である。この しかし学校新聞をこの理想的状

しそれでは新聞の評論というもの

であると思われる。しかし全く報 つの記事についても多くの要素を りと割り切れるものではなく。一 の記事がこれというようにきっぱ としては、ある事柄の報道とそれ 道性、記録性や娯楽性を無視して べきであるかを考えてみよう。 含んでいる事を付け加えておく。 について考えて来たが、どの要素 において最も重要なものは評論性 いいというのではない。学校新聞 以上新聞の多面的な多くの要素 2でも述べたように、 学校新聞 それでは学校新聞はいかにある 3 学校新聞のあり方。

が学校内の家庭的雰囲気を形成す るに貢献し、又保存する事によっ 想的である。そしてその新聞全体 の娯楽性をも含んでいるものが理 れば、なお好ましい事である。 て自然と記録性を有する事ができ は生徒から拒絶きれた面白味のな い学校新聞にならぬように、適度 に対する評論を軸にし、又一方で 必要なのである。 校生らしい新聞を作るという事が

ども、実際は他の記事でも十分な 自から読者を作るものである。 ける事を述べておく。読まれない 内容をもつものなら必ず読者にう らえないかの如く述べてきたけれ 娯楽記事以外は皆んなに読んでも 最後に今まで述べてきた中で、

聞の記事特に論評記事等では、 的無関心にもよるけれども、新聞 考えなければならない。この読ま 皆によく読まれるものになるよう している事になる。そこで新聞が んでくれる楽しい記事を戴かせ 駆ろその代りにもっと皆んなの読 たらと難かしく、理解しにくく書 れない新聞の原因は、生徒の慢性 方が、新聞としての使命をよく果 はあってもなくても同じになり、 内容にもよるものである。学校新 二、取材 これは編集万

あらゆるものを軽蔑的に批判した ならない。あらゆる事に関して高 るものを選ぶようにもしなくては げる事を考える時にも、 なければならない。最初に取り上 るかの如く振舞うものも改善され 事評論出版物等をそのまま盗用し 一人偉大であると意識しながら、 かれた物が多い事や、筆者が自分 えて生徒に何らかの関心をもたせ てきて、自分達が書いたものであ 記事が多い事にも由来する。又時 十分に考 まとめあげる。この時の忙がしさ、 担を決め、又、決定された原稿用紙の枚数 局員が各々の分 針にそって、各 い様に丁寧に割り当てる。この時は、原稿 に例当てられた順稿をよく練り直し、 かし、それが完成した時の喜びは格別で 期日がせまってきた時の精神的な圧迫、

れてはならない。価値ある記事は一と評論で埋められた洛星新聞なの 記事はどこかに欠陥がある事を忘一可もなく不可もない新聞、批判力 である。来春には創立十五周年を してここ数年来続いているのが、 えないのであって、そのような新 かしそんな新聞がいい新聞とはい 気になっていたものであった。し ているように思われる。 こらで一つの転機を迎えようとし 迎えようとしている洛星新聞はこ

洛星新聞の在り方

洛星新聞につい

それでは次に洛星新聞を見てみ一もしろい新聞を作る事を目ざしま ら洛星高校の卒業生がで始め、世 間に於いて人々が洛星を知り始 うかがえるものである。この頃か す。」といったのにもその意向が ば、洛星は学校組織の規模が小さ の占める価値は小さい。何故なら きであるかを考えてみよう。 く、又先生と生徒の関係が親密な 洛星新聞は、他校以上に報道性 洛涅新聞はこの先如何にあるべ

その

を払いだした。こうなると落星と め、又洛星高校というものに注意

いうものが、異常なまでも外面を

他 校 紙 を 見 3

解できる。

何の引きつける要素をもっていな それを打ち破るかのように、時た のになってきたのである。そして一ので、ここで他校紙を見てみる事 つれて、洛星新聞がつまらないも一くの学校から新聞を送って戴いた の致命的なことは、生徒に対して いという事である。そしてそれに一他校紙の提供をお願いした所、多一も、見出しを見ただけでどうして一ある。それに従って社会記事は第 る。そこで、文化祭展示に当り、 新聞部と、新聞の交換を行ってい 洛星新聞局では全国約六十校の せられるもの しい企画をしているものがある。なの学校生活に関係のある事で埋 ている新聞をみるにつけ、全く関しいられてきている。

他校紙を見ていて非常に関心さ

ている新聞を

|る。洛星新聞ではこのところ評論 |国の高校生の考える事は南も北も ける新聞を作る事が洛星新聞の歩 われるのである。もっと読者にう こで考えられる事は、論評面での むべき道であろう。 性を余りに重視しずきていると思 要なのはもっと生徒に人気のある 評性過多の感がある洛星新聞でこ は問題がある。それよりも当面必 企画の同一性にも見られるし又、 変りないという事である。それは 論評、批判の内容の根底にあるも は全国の学校の共通した問題にな で大きな問題になってきている事 のの一致にもみられる。ある学校 て一つの点に集結している事が理 っており、それに対する論説は全

も読んでみたくなるようなすばら一二面に移り、一面にはもっと皆ん くその学校と関係のないものでしまる方向に変ってきている事で つは企画のよさである。僕達、全一べるものから、皆んなで考えよう が多くある。その一一事がただむやみやたらと意見をの 新聞の傾向は、社会記事、政治記 最後に他校紙にみる最近の学校

四、印刷

う。最もこれが難かしく、時間もかかる。 字数を考え、行数、段数を調整しながら行な

北区小松原南町 上级2334 吉川印刷工業所

別

回 4

号

足ないが、来年からその人数の不足が編集 とそはと思う人の人局が期待される。 危機を持たらされる恐れがある。依って、 それを中心に編集方針を立てる。現状況とし 余り変化はない。殊に何か大きな出来事が 配、整理をする。しかし、原則となるものは ては主脳部を形成する高二生に人数的には不 れば、例えば記念祭、あるいは入学式などは 先す編集方針を決定し、 それを紙面に

五、校正

違の手では行なわない。

印刷は印刷屋に出すので新聞局では、自分

新 聞 のできるまで られる。それに時には不足している記事を追

ともある。

それからまる

加したのするこ

時は相当数の誤字誤植。それに抜けた字が見

ってきたゲラ刷りを使って行なわれる。この

初校は印刷屋へ出した日から三日目位に戻

が行なわれる。この時にもまだ多かれ少なか 六、発行 れ誤字誤植が見出される。 一日おいて二校

殊にメ

に配布される。 く。これを各クラス、各先生方、図書館など 二校のあと三日目に印刷された新聞が届

取りに来てもらいたい。 放送しているが、来ない事が多いので、今後 この時、週番などが新聞を取りにくる様に

最初に決定された編集万針に従い、大き

見や

間は長続きする筈がなかった。そ一が変化するとは考えられないか て平凡さを打ち砕いたかのような 的な新聞が発行され、それによっ一為、何かの出来事が起ったにして一心してしまう次第である。十分に |紙面の充実であるが、現在でも論| 取材がなされているものは、その ら、この先も、洛星新聞に於ける一取材に見られる。読者の心をうま る。未来に於 る必要もないような状態なのであ も少くとも翌日には生徒に知れ渡るろられた企画の重要性を新たに 報道性の価値は少いであろう。そ
|く捕えていてしかも、その記事の っており、今さら新聞で取り上げ れ以上この種の記事を増やす事に一えてくれているように感じる。読 記事を揺載する事が必要なのであ一る。その次に感じられる事は、全 いてもこのような形 つきが直接感じられるものであ 者と新聞を通しての先生との結び 学校の雰囲気をそのまま僕達に伝 一中に何か人間的な親しみを覚える 多くの場合、それは先生に関する 報道の取り扱いのうまさである。 感じさせるものがある。 その次に目につくのが、娯楽的